

# コーディネーター通信

小・中学部用 第29号 平成24年3月7日  
三重県立稲葉特別支援学校 特別支援部発行

## 御卒業おめでとうございます



明日は、平成 23 年度三重県立稲葉特別支援学校の卒業式です。

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様にも心より、お祝い申し上げます。

小学部卒業生の皆様は 6 年間、中学部・高等部の卒業生の皆様は 3 年間、稲葉特別支援学校で過ごしてこられました。

楽しい学校生活でしたか、友だちと遊ぶことができましたか、先生から様々なことを学ぶことができましたか、大きく成長することができましたか。

三重県立稲葉特別支援学校の全教職員が皆様の卒業を祝福しています。

明日は、素敵な卒業式にしましょう。



# 東日本大震災 から1年。



未曾有の大震災から、もうすぐ1年が過ぎようとしています。新聞やニュースでは、復興はまだまだ進まず、つらい生活を送っている方々が数多くおられることを伝えています。この震災によって、亡くなられた方は、15,000人を超え、未だ行方の分からない方は3,000人以上も見えるということです。さらに重軽傷者は6,000人を超えています。

こうして、日常生活を送ることができる私たちは、今がどれほど幸せなのか、そのことに気づいていないかもしれません。もちろん、本校においては、毎日が大変な状況で過ごされている保護者の方もおられることも忘れてはいません。

かつて私は、病院内教室で3年間教員をしていました。ちょうど、高度先進医療を必要とする長期に入院しなければならない子ども達に対し、教育保障をということで、全国的にも教育が開始された時でした。

新採1年目だった私は、希望を出しそこに行くことを願い出しました。しかし、初めてその病院を訪れ、廊下ごしに病棟にいる子ども達と出会った時、自分のできるのだろうかという不安に襲われたことを覚えています。

子ども達は、長期間の入院によって、教育を受ける機会がありませんでした。待望の教室がようやく病院内にできたのです。うまくいかないわけはありません。不安はすぐに消えました。毎朝の血液検査の数値で、教室に来られる子どもは教室へ、数値によっては病室から出られない子もいます。教室に来られない子には、病室に訪問しベッドサイドで学習をすることになります。時には、勉強は早々に切り上げいろんな話をして過ごすこともありました。

毎日が楽しい日々でした。子ども達の意欲は高く、点滴をガラガラと押しながら、教室に「おはよう」と入ってきます。私の下手などんな授業も子ども達は喜んで受けてくれました。外へ出ることもできない子ども達です。窓に雪がちらつければ「雪に触りたい」と、「よし分かった」、ジップロックの袋に雪を入れ、それをドクターに見せ、袋の上からなら触らせてもいいですかと確認し、袋ごしに雪を触らせたこともありました。そんな日々の工夫も楽しい毎日でした。しかし、高度先進医療を必要とする子ども達にとって、その病状がすべて良くなるとは限りません。本当に言い尽くせない様々なことが3年間の間にありました。

命の尊さ、命の重さ、命のはかなさを、深く深く感じた日々でした。昼間でも真っ暗にしなければならない病室で、眠れない子どもに国語の教科書を読み聞かせたことを、今でも昨日のように覚えています。

教師としての無力さを痛感した3年間でした。

卒業生の皆様、今ここにある命を大切に、この世に生を受けた限りは、有意義に充実した人生を送ってください。つくづく悲しい時があれば、過ぎ去りし日を時には振り返ることもいいでしょう、しかし、前向きに自分の人生を生きてほしいと思います。人生の門出の時です。命ある限り、最後まで可能性に挑戦してほしいと思います。私たち教員はいつでも皆様に心から応援しています。

これからの皆様の人生に幸多きことを。

特別支援教育コーディネーター 西井孝明

